

幼児教育研修（年齢別担任研修5歳児 第1回）

受講者数 80名

日時 令和4年5月24日（火）15:00～17:00

場所 竹の塚地域学習センター

講師 明治学院大学 心理学部 教育発達学科 特命教授 田代 恵美子 氏

【内 容】～子どもの発達と保育者の関わりについて～

5歳児の保育のポイントは子どもたちに考える機会をつくること、見通しと目的をもたせること、そして保育者は共に生活を創る「伴走者」になることを心掛けることです。子どもの姿を幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と照らし合わせながら学びを深めます。



【受講者の感想】

* 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

- ・つい自分が答えを誘導してしまいがちであった。子どもたちが解決する力、相談・協力する力を引き出せるよう毎日を過ごしていきたい。
- ・普段の保育の中で安全性を優先して子どもの遊びを制限してしまったり、「それはいけないよね」とこちらから何がいけないのかを言ってしまうていた。まずは子どもに投げかけてみるということを実践してみたい。
- ・昨年4歳児の研修に参加させていただいた。4歳児と5歳児の声掛けの違いや子ども自身が考えて行動することの大切さについて学んだ。講義はとても分かりやすく、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を取り入れた保育について改めて考えるきっかけとなった。
- ・保育の教材は保育者が決めてしまうのではなく、子どもの発想から教材を増やしていくことが大切だと学んだ。また、事例の中で紹介された「遊びに用いてもよい花」を環境として用意することを園に提案したいと思う。
- ・子どもたちが問いかけてくれた時、すぐに答えを出さないよう「どう思う」など少し考えられるような言葉かけを意識していきたい。
- ・今まで漠然と友達同士の関わりを見守っていたように自分でも感じるので、より深く子どもたちの姿を見取っていけるようにしたいと強く感じた。
- ・活動を計画する時、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿のどの項目と関わっているか考えると共に振り返りもしっかり行っていきたい。